

こんにちは

日本共産党

横浜市議団です

日本共産党
横浜市議員団
2011. 06. 15号

横浜市中区港町1-1(市庁舎内)
電話 671-3032 FAX 641-7100
E-mail: info@jcp-yokohama.com
http://www.jcp-yokohama.com/

横浜市が市内小学校の放射線量測定開始

小学校18校(各区1校)で目標値以下

横浜市は1日、福島第一原子力発電所事故に伴う放射線物質の影響に対する不安を払拭するため、地表近くの大気(空間線量)及び給食材料などについて放射線量を測定して公表すると発表し、13日に第1回目の測定を実施しました。

同日、各区1校ずつの小学校計18校で測定を実施。中区の市立山元小学校の校庭では、市消防局職員が、同局の測定器サーベイメーターを使い、地表面から50cm地点の空気中の放射線量を5カ所で計測しました。

18校の測定結果は、最小値が0.04~0.10 μ Sv/h(マイクロシーベルト/毎時)、最大値が0.09~0.15 μ Sv/hで、いずれの小学校の値も、文部科学省が示した目標値「学校において年間1mSv以下」を下回り、利用者の健康に影響はないと教育委員会は説明しています。

放射線量は毎月、各区の小学校3校、中学校1校、保育園2園、全市で2つの公園で測定し、結果を市のホームページで公表します。

また、放射線問題に全庁的に対応するため、



放射線量を測定する消防局職員＝6月13日横浜市中区山元小学校校庭(しんぶん赤旗記者より写真提供)

放射線対策部を災害対策本部内に設置し、部長に副市長、副部長に健康福祉局長があたります。

原発事故以降、教育委員会などに学校給食には福島県産や茨城県産ではなく西日本産の食材を使用してほしい、学校の放射線量を測定してほしいなどの要望が寄せられ、市民からの震災関係の提案数は5月末までに約430件にのぼっています。同様の要望は日本共産党市議団にも寄せられています。

放射線量測定対象

測定場所・対象	測定内容	測定開始時期	選定の考え方
市立小学校	地表50cmの空間ガンマ線量	初回6月13日以降順次実施	学校・園の規模、地域のバランスを考慮し順次測定
市立中学校	地表1mの空間ガンマ線量		
認可保育所	地表50cmの空間ガンマ線量	6月中旬以降	
公園	地表50cmの空間ガンマ線量	6月中旬以降	近隣で測定する小中学校・保育園の位置を考慮し測定
都筑区役所 南部公園緑地事務所 環境科学研究所	地表50cmおよび1mの空間ガンマ線量	6月13日から3か月間毎日	市域全体の配置バランスを考慮
小学校給食食材	食品の放射能濃度	6月中旬以降	給食に使用する食材から選定
市内産農産物等	食品の放射能濃度	7月上旬*	生産状況や代表的生産地を踏まえ出荷前の畑から採取
市場の流通食品	食品の放射能濃度	8月上旬	本場及び南部市場の流通食品から選定
海の公園・海水浴場沖	海水の放射能濃度	7月*	市内の海水浴場

*: 現在は神奈川県が検査実施中

横浜市災害対策本部提供の資料から作成